

令和 7 年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団
事業計画書

令和 7 年度事業計画書

公益財団法人名古屋みなと振興財団は、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及に努め、併せて観光事業の振興を図り、名古屋港の発展に寄与することを目的として各種事業を実施する。

令和 7 年度は、本財団が名古屋港管理組合から名古屋港水族館の 4 期目（指定期間 10 年）の指定管理者として運営を行う 3 年目であり、名古屋港ポートビル、南極観測船「ふじ」及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設については、5 期目（指定期間 5 年）の指定管理者として運営を行う 3 年目となり、施設の安心・安全、公平・公正な利用及び管理運営の効率化を推進していく。

なお、南極観測船「ふじ」については、開館 40 周年を迎えることから記念事業を実施するなど、更なる施設の魅力向上に努めていく。

また、国内での電子チケットや昨年度に導入した年間パスポートの Web 販売のみならず、インバウンド対策として国外においても電子チケットの販売を継続するとともに、施設の魅力向上、来館者の満足度向上に取り組んでいく。

1 公益目的事業

（1）海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 指定管理施設（名古屋港水族館）を活用した海洋生物の展示等

海洋生物の展示を通して海洋文化にふれあう場を提供する。

展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境の管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者等による解説活動やモニター、ライブカメラを用いた動画での生態・行動等の解説を積極的に行い、来館者への海洋文化の普及を促す。

令和 7 年 3 月 25 日からイルカパフォーマンスに鯨類の進化と地球環境というテーマを設定し、副題を「Blue Echo」として新しくスタートする。人気の高いイルカパフォーマンスを用いて、長い歴史の結果、出来上がった地球環境や生物の多様性に関する意識の向上を目指す。

シャチに関しては、平成 29 年度からメインプールで「シャチの公開トレーニング」を実施しており、メインプールでの実施割合をより多くするために、シャチの健康維持に心掛けるとともにトレーナーのスキルアップを図る。

また、令和 2 年 5 月にオープンした南館 3 階の常設展示室「エコ・アクアリウム」では、海洋環境に関する啓発に努めていくとともに、愛知県、名古屋市等と連携を図りながら、

SDGs（持続可能な開発目標）に関する理解の促進も行っていく。

さらに、令和 7 年 3 月末から北館 2 階の「発見コーナー」において、本財団が名古屋港において調査している小型鯨類スナメリの紹介パネルを新たに設置する。

特別展については、今年度が南極観測船「ふじ」が名古屋港ガーデンふ頭に係留されてから 40 年となるため、ポートビル施設と合わせて南極観測隊と南極観測船に焦点を当て、40 周年記念特別展として開催する。

加えて、カプセルトイを利用して展示生物の支援金を募り、海生生物への親近感を高めながら、水族館運営資金の確保に努める。

② 体験プログラムを通じた海洋文化の普及

小中学生を対象とした水族館内でのスクール、広く一般を対象とした体験イベント、講演会など、主に水生生物に関する知識を深めるため、「君もドリトル先生になれるか!」、「もっと知りたいダーウィン教室」、「ナイトウォッチング」を実施する。

また、早朝の水族館観覧で生物への親しみを深める「水族館 de モーニング」等の企画プログラムを実施する。

③ 指定管理施設（名古屋海洋博物館・南極観測船「ふじ」等）を活用した海事に関する展示等

これらの施設において、所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想の普及を促す。名古屋海洋博物館等においては、船やガントリークレーンの本格的な操縦体験を行えるシミュレーターなどの体験型の展示や、スマートフォンによるモバイル解説、オンライン動画配信サービスを活用することにより、学習効果の向上に努めていく。

今年度は、南極観測船「ふじ」が名古屋港ガーデンふ頭に係留され、博物館として開館 40 周年を迎えることから、これを記念して「南極」をテーマとした記念特別展を開催する。メイン会場の「ふじ」では、南極観測に関わる「船」を主なテーマとして、歴代の観測船の紹介や、南極での観測活動及び船内での日常生活について紹介する。また、南極観測における日本隊の功績を写真パネルや映像、観測隊提供の資料により展示する。なお、記念特別展は、「南極」をテーマに名古屋港水族館と連携して開催する。「ふじ」と水族館それぞれの視点での展示解説を行うとともに、各施設を巡る関連イベントを実施することにより、海事思想の普及、ガーデンふ頭における賑わいと回遊性の創出を図る。

名古屋港ポートビル 2 階回廊ギャラリーにおいては、無料で利用できる市民ギャラリーとして、海に関する作品や、海に関わる人々の作品を中心に展示する。

また、SNS（フェイスブック、インスタグラム）を用い、展示物の紹介等を積極的に行うことにより、海事思想により興味を持っていただき、港そして海をより身近なものとして感じることができるよう、施設の認知度向上を図る。

加えて、新たにカプセルトイを利用して展示物補修の支援金を募り、海事思想の普及を図りながら、博物館運営資金の確保に努める。

④ 体験プログラムを通じた海事思想の普及

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、「星空観察会」、「南極教室」、「工作教室（ペーパークラフト、3D 立体カード製作）」、「ボトルシップの作り方入門教室」等の体験プログラムを実施する。

⑤ 機関紙等による情報提供

名古屋港水族館機関紙「ニュースレターさかなかな」、生物情報誌「新着！海の生き物レター」等をタイムリーに発行し、詳細に野生動物や水族館に関する情報を提供する。作成した製作物は、これまでの紙媒体での配布を取りやめ、Web 上のみで公開することとし、速やかな情報提供を行うとともに紙資源の削減に努める。

また、名古屋港水族館では来館前後を含めたより深い探求的な学びを可能にする学習教材「かんさつノート」（小中学生向け）や「環境ノート」（中学生以上向け）を発行し、館内配布のほか、ダウンロード版の提供や学校団体への来館誘致ツールとするなど、幅広く活用していく。

⑥ 学生の職場訪問等の受入れ

中学生を対象とした職場訪問・職場体験、学芸員課程を履修している大学生を対象とした博物館実習などを受け入れ、名古屋港水族館及び名古屋海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体等へのレクチャー、大学への非常勤講師の派遣を実施することにより、海洋文化及び海事思想の普及を図る。

水族館の団体向けレクチャーにおいては、これまで4つのプログラム（「水族館の仕事」、「水族館の見どころ」、「ウミガメについて」及び「環境」）を実施していたが、今年度からは「ウミガメのサバイバルゲーム」を新規のプログラムとして加える。これは従来の聞くだけから参加体験型のプログラムへと発展させたもので、小学生低学年向けレクチャーなどでの需要増を見込んでいる。

⑦ ボランティアの育成、活用

名古屋港水族館において、展示生物の解説、スクールなどの補助といった教育普及業務を行う解説ボランティア制度を導入している。この制度は、ボランティアへの研修、解説活動などを通して、自己啓発や自己実現という生涯教育の場を提供するとともに、習得した知識・解説スキルを用いて来館者へ興味・感動を呼び起こすことを目的としている。

解説活動は、南館「タッチタンク」、「ウミガメ回遊水槽」及び「ペンギン情報コーナー」、北館「進化の海」において、今年度も引き続き実施し、ボランティア及び来館者へ海洋文化の普及を促していく。

また、名古屋海洋博物館・南極観測船「ふじ」においても、展示解説などの教育普及業務補助及び「ふじ」の塗装等の修繕を行うボランティア制度を実施し、ボランティア及び来館者へ海事思想の普及を促していく。

⑧ 海洋生物等の調査研究

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施する。

特に鯨類に関しては、繁殖による展示生物の安定的な確保及び健全な飼育は重要課題であり、様々な研究機関の協力を仰ぎながら、今年度も継続して技術開発を進める。

また、名古屋港内に冬季に来遊し、水産資源保護法で管理されている小型鯨類スナメリの生息数調査を大学や名古屋市内の専門学校と共同で取り組む。平成 29 年度まで実施した調査を元に、平成 30 年度後半から港内全域での本格的な調査を開始した。今年度も継続して調査を実施し、生物学的な基礎研究を進め、その研究成果の紹介に努める。調査費用に関しては外部の研究助成金に積極的に応募する。

米国スタンフォード大学、高知大学などと共同で令和 4 年から 5 か年計画で開始した、名古屋港水族館で育成したアカウミガメの北太平洋中部の東端における回遊経路調査（STRETCH（Sea Turtle Research Experiment of the Thermal Corridor Hypothesis））を今年度も継続して実施する。

（２）ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等からなる名古屋港観光施設協議会を通じて、相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進 PR、誘致営業・宣伝事業等を行う。

観光キャンペーンの一環である観光展「ゴーゴー名古屋港！」の実施、県内外の幼稚園

始め学校関係者及び国内旅行やインバウンドを取り扱う旅行代理店等への訪問や聞き取り、関係観光振興団体が主催するインバウンド営業活動への参画、誘致営業、PR 事業などを行う。

② 情報誌等の発行

名古屋市内の小中学校の PTA 新聞に、名古屋港水族館とガーデンふ頭の観光施設情報記事「すいぞくかん便り」を掲載し、児童生徒と保護者の来港意欲を喚起する。

このほか「名古屋港ガイドマップ GoGo 名古屋港」を発行し、観光施設 PR と来港者の利便性向上を図る。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関連機関が主催するイベントや観光推進事業等に参加し、協働して観光振興と PR に努めるとともに、観光施設等関係者との連携及び情報の共有化を図る。

また、名古屋市交通局と連携して、市営交通機関利用者への本財団管理施設の料金割引により、公共交通機関の利用促進と来港者増加を図る。

加えて、「名古屋港水族館パートナーシップホテル」制度を運用して近隣地域の宿泊施設と連携し、ガーデンふ頭諸施設への積極的な誘客に努めていく。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催

昨年度の「ウェルカムポートフェスタ」、「みんなであげよう！名古屋港の風揚げ祭り」に引き続き、ガーデンふ頭地区で各種イベントを実施して、港に賑わいを創出し、親しまれる港づくりを推進する。

⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）における賑わいの場の提供

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じ、多彩なイベントの開催を積極的に支援し、更なる賑わいの創出を図る。

また、ガーデンふ頭臨港緑園は日常的に地域住民の憩いの場として親しまれており、緑地維持業務、花壇整備等の施行により、緑豊かで快適な環境づくりの推進に努める。

2 公益目的事業以外の事業

管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機の運営や「名古屋港水族館の営業時間外利用」を促進する。

また、水族館とポートビル施設において、南極観測船「ふじ」の開館 40 周年記念グッズや、「ふじ」の御船印を新規に販売し、親しまれる港づくりを推進する。

「名古屋港水族館法人サポーター会員制度」を運用して水族館の活動への賛同と事業協力を募り、公益目的事業を補完する。